

第2期 蒲郡市子ども・子育て支援事業計画 令和4年度進捗状況の点検・評価書

蒲郡市では、前計画の基本理念「みんなで育てよう 子どもの笑顔 かがやくまち 蒲郡」を継承するとともに、「子どもファースト」に基づいた子育てしやすい最適な環境整備に努め、すべての子どもたちが幸せを実感し、健やかに成長することができるよう、行政と市民の皆様が一緒になった「ワンチーム」での子育て支援施策の推進を目指しています。その手段として第2期蒲郡市子ども・子育て支援事業計画に基づき、保育及び幼児期の教育と子ども・子育て支援の充実を順次図り、計画に示した各種子育て支援施策（事業）を推進しています。

本計画に定めた各種事業の点検・評価を通じ、質の高い保育・幼児期教育やニーズに応じた子育て支援事業の実現に向けた現在の取り組み内容及びその進捗状況を確認することで、新たな課題の抽出や効果的な事業展開に役立てるとともに、今後の施策及び事業の見直し・改善に役立てていきます。

なお、点検・評価に当たっては「蒲郡市子ども・子育て会議」がその中心を担い、市民の皆さまに公表していきます。

令和 5 年 10月
蒲郡市子ども・子育て会議

第2期蒲郡市子ども・子育て支援事業計画

進捗状況の点検・評価を行う14事業・項目

平日日中の教育・保育の提供

1号認定（3歳以上保育の必要なし）	子育て支援課	1
2号認定（3歳以上保育の必要あり）	子育て支援課	2
3号認定（3歳未満保育の必要あり）	子育て支援課	3

地域子ども・子育て支援事業

時間外保育事業（延長保育事業）	子育て支援課	4
放課後児童健全育成事業（児童クラブ）	（教）教育政策課	5
子育て短期支援事業（ショートステイ）	子育て支援課	6
地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター事業）	子育て支援課	7
一時預かり事業	子育て支援課	8
病児保育事業	子育て支援課	9
子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター）の就学児童対象部分	子育て支援課	10
利用者支援事業（子育てコンシェルジュ）	子育て支援課	11
乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん訪問）	健康推進課	12
養育支援訪問事業	健康推進課	13
妊婦健康診査	健康推進課	14

令和4年度事業のまとめ（寸評）

事業・項目名	事業担当課による自己評価	子ども・子育て会議が考える今後の課題
1 1号認定 (3歳以上保育の必要なし)	幼稚園との情報共有や事務手続き等の連携を密に行いました。	市、幼稚園、児童発達支援事業所、関係機関が連携を更に強めて、社会ニーズに迅速に対応できる体制づくりが必要です。
2 2号認定 (3歳以上保育の必要あり)	園によって申請数に差があり、みどり保育園では令和4年4月からの入所申込の際に定員を超える申請があり、令和3年度に引き続き市による利用調整を行いました。 また、支援が必要な児童については、児童やその家族にとって最善の支援が提供できるように努めた結果、令和4年度の入所につながったケースもありました。	園によって申請数に差があり、市による利用調整が行われているため、引き続き、園ごとの保育ニーズを把握していく必要があります。また、今後は、市、保育園、児童発達支援事業所、関係機関が連携を更に強めて、社会のニーズに迅速に対応できる体制づくりが必要です。なお、国が進めている加速化プランの「こども誰でも通園制度」が実現した場合は、本市の方向性を考える必要があります。
3 3号認定 (3歳未満保育の必要あり)	保育の質にも十分配慮しながら、待機児童が生じないよう低年齢児の受け皿の確保や保育士の確保に努めました。	保育希望者の把握は、少子化、共働きなどを考慮して総合的にニーズの把握に努めていく必要があります。
4 時間外保育事業 (延長保育事業)	延長保育時間に従事する保育士の確保と子どもがゆったりと過ごせる環境作りができるよう努めました。	引き続き、保育の質的な部分で、保育士と子どもがゆったりと過ごせる環境づくりが必要です。
5 放課後児童健全育成事業 (児童クラブ)	学校によっては、余裕教室があったとしても、セキュリティ管理の導線上、児童クラブとして容易に借用できないなど、受け入れ体制の増強については非常に厳しい状況となっています。また、職員についても有資格者（支援員）の確保に引き続き苦慮しているところですが、効率的な配置を図り、受け入れ体制を整えていきたいと考えています。	年々児童クラブ利用申込数は増加している。子どもたちの放課後の適切な環境作りのために、保護者のニーズを把握し、引き続き、量の拡充や指導員及び運営の質の向上を図っていく必要があります。
6 子育て短期支援事業 (ショートステイ)	引き続き、支援が必要な家庭に対し、養護先等を提供し、子どもの心身の安全に寄与するよう努めます。	必要とする方が必要なときに活用できるように、今後も事業の周知を図ることが求められます。
7 地域子育て支援拠点事業 (子育て支援センター事業)	母親の育児不安等を分析しながら適切なアドバイスができるよう努めました。引き続き、親子でゆったりできる環境や相談できる場を提供していきます。	施設の周知や、潜在利用者の利用促進に力を入れる必要があると思います。
8 一時預かり事業	今後も利用の増加が見込まれるため、利用の利用調整について、解消できる方法を検討します。必要な方が必要な時に利用できる体制づくりが求められます。	事業の質的な部分で、地域間格差が生じないように今後研究することが必要です。
9 病児保育事業	引き続き、利用の周知に努めるとともに、真に必要とされている方が利用しやすい事業となるよう検討する必要があります。	引き続き、利用の周知に努めるとともに、真に必要とされている方が利用しやすい事業となるよう検討する必要があります。
10 子育て援助活動支援事業の就学児童対象部分 (ファミリー・サポート・センター)	援助会員数の微減が続いており、今後も、援助会員数を伸ばしていくように努めていきます。	制度の周知と援助会員の確保が必要であります。現在とは別の周知方法も考えることが必要であり、シルバー人材センターが会員に周知をしていきますが、効果を検討する必要があります。
11 利用者支援事業 (子育てコンシェルジュ)	子育てコンシェルジュの配置場所により、利用者が必要とする役割がそれぞれに違うため、各配置場所に適した利用者支援を進めてきました。今後も、それぞれの場での特性を活かした利用者支援を行っていききたいと考えています。	相談の方法は対面相談、Web相談、オンライン配信の実施などを更に研究し、相談しやすい環境づくりが今後も必要です。
12 乳児家庭全戸訪問事業 (こんにちは赤ちゃん訪問)	今後も全家庭を訪問できるように努めていきます。訪問できなかった場合は、地区の担当保健師が面接し情報提供や養育支援方法を確認していきます。	ほとんどの家庭に訪問できており、未実施の状況把握もできています。引き続き、赤ちゃん訪問員を始めとした訪問者の確保と育成が課題と考えます。
13 養育支援訪問事業	今後も課内の連絡会等で支援状況を確認し、必要な対象者に対して必要な時期に訪問ができるように努めていきます。	すべての家庭で必要な支援を受けることができるよう、これまで以上に諸機関と連携をし、事業の実施体制を構築することが求められます。
14 妊婦健康診査	今後も妊婦が必要な妊婦健診を受けることで、妊婦の健康の保持及び増進を図るよう努めていきます。	ほとんどの妊婦が健診を受診できており、引き続き、現在の実施体制で事業を継続する必要があります。
その他全体にかかわる課題	子育て世帯を支援するため、引き続き、各事業の周知が求められます。また、国ではこども家庭庁の設置により、子育てを取り巻く環境の変化に対応できるよう、量の確保及び支援者の質の向上を図りつつ、諸機関との連携を密にして、より一層の事業の充実に努める必要があります。今後は、諸機関及び各課の連携が一層必要になります。	

評価書の構成・見方

1 事業名	この事業の名称を記載しています。
2 事業担当課	この事業の担当課を記載しています。
3 事業内容	この事業の内容を記載しています。
4 確保方策（計画）	計画では、就学前児童及び小学生の各保護者を対象に平成30年10月～11月に実施したニーズ調査等を踏まえ、この事業の実施目的を達成するために準備すべき数量（対象人数や対象施設数など）を定めています。この「 <u>量の見込み</u> 」を満たすための手段（内容や実施時期など）を「 <u>確保方策</u> 」とし、計画で定めた「確保方策」の内容を記載しています。つまり、「量の見込み」とは「市民からの必要希望数」と、「確保方策」とは「市民ニーズの受入体制」と言い換えることができます。
5 進捗状況（計画値・実績値）及び評価	計画値に対する令和4年度までの実績値を記載した上で、2つの「評価指標」を基に事業担当課が実施した評価結果を○×で分かりやすく記載しています。
（計画値・実績値）	計画値には「量の見込み」と「確保方策」の数値を、実績値には「利用申込数（保護者の希望）」「利用者数（結果）」「過不足（差引）」などの数値を記載しています。実績値は、当該年度内における最大値（事業番号6～14は、当該年度の末日現在の数値）を記載することで、評価指標①の判定の参考になるようにします。また、事業によって「量の見込み」に対する「利用者数」などの割合を「利用率」として記載しています。この「利用率」を高めていくことが求められます。
（評価指標①）	評価指標①では、 <u>計画通りに準備が進められたかどうか</u> を判定します。具体的には、「確保方策」の計画値（B）を満たすことができる体制が確保されていると判定したとき、もしくは、（B）が計画値を下回った場合であっても「量の見込み」の計画値（A）を上回っており円滑な運用ができたと判定したときは「○」を、確保されていないと判定したときは「×」を記載しています。
（評価指標②）	評価指標②では、 <u>計画で定めた「確保方策」自体が現実の保護者のニーズを満たしているかどうか</u> を判定します。具体的には、「確保方策」の計画値（B）－「利用申込数など」（C）の値がプラスのときは「○」を、マイナスのときは「×」を記載しています。ただし、事業によっては、確保方策（B）と申込児童数（C）の比較対象が異なる場合があります。その場合は、「－」を記載しています。
6 自己評価（事業担当課）	令和3年度事業に対する担当課の自己評価として、（1）評価指標の補足説明、（2）事業評価を行う上で参考となる実績値、（3）事業の課題や今後の考えなど（所見）を記載しています。
7 委員から出された課題	5・6の内容を受け、子ども・子育て会議委員から出された課題を記載しています。
8 この事業全体を通した課題	7の課題の中から、子ども・子育て会議のまとめとして、この事業全体を通した課題を記載しています。

1 事業名	1	1号認定（3歳以上保育の必要なし）	6の続き																																									
2 事業担当課	子育て支援課		(2) 認定児童数の実績値																																									
3 事業内容	1号は、平日日中において、3歳以上の児童で保育の必要がないときに認定するものですが、保護者の就労等で保育の必要があっても、幼稚園の入園を希望する（2号認定教育ニーズ）ときは1号として認定しています。		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>最大値 (令和5年3月)</td> <td>令和4年 4月1日時点</td> <td>年度途中の認定</td> </tr> <tr> <td>認定児童数(人)</td> <td>544</td> <td>490</td> <td>54</td> </tr> </table>				最大値 (令和5年3月)	令和4年 4月1日時点	年度途中の認定	認定児童数(人)	544	490	54																															
	最大値 (令和5年3月)	令和4年 4月1日時点	年度途中の認定																																									
認定児童数(人)	544	490	54																																									
4 確保方策 (計画)	事業2の2号認定の教育ニーズを含め、既存の市内の幼稚園と認定こども園で量の見込みをすべて確保します。		(3) 所見																																									
5 進捗状況(計画・実績値)及び評価			<p>今後、計画どおりに体制を確保し、1号認定ニーズの把握に努めていくとともに、幼稚園との情報の共有化を図ります。</p>																																									
<p>(計画・実績値) 単位：人/年</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み(A) (+168)</td> <td>422 (+167)</td> <td>413 (+163)</td> <td>416 (+164)</td> <td>410 (+163)</td> </tr> <tr> <td>確保方策(B)</td> <td>610</td> <td>610</td> <td>610</td> <td>610</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">実績値</td> <td>申請児童数(C)</td> <td>601</td> <td>570</td> <td>544</td> <td></td> </tr> <tr> <td>認定児童数(D)</td> <td>601</td> <td>570</td> <td>544</td> <td></td> </tr> <tr> <td>差引(C)-(D)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>142.1% (101.7%)</td> <td>135.1% (96.7%)</td> <td>131.7% (94.4%)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※量の見込み(A)の下段()内の数字は2号認定教育ニーズの数字となり、1号認定の全体の見込みとしては上段の保育の必要性のない1号認定の見込みと、下段の2号認定教育ニーズ見込みを合計した数字となります。 ※利用率：量の見込みと認定児童数との比較【(D)÷(A)×100%】 上段：(D)÷(A上段)×100% 下段：(D)÷(A上段+下段)×100%</p>			区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	計画値	量の見込み(A) (+168)	422 (+167)	413 (+163)	416 (+164)	410 (+163)	確保方策(B)	610	610	610	610	実績値	申請児童数(C)	601	570	544		認定児童数(D)	601	570	544		差引(C)-(D)	0	0	0		利用率	142.1% (101.7%)	135.1% (96.7%)	131.7% (94.4%)			<p>7 委員から出された課題等</p> <p>申請児童数は、年々微減傾向にありますので、引き続き幼稚園との情報共有をし、1号認定のニーズの把握が必要です。</p> <p>今後、インクルーシブ教育などに対応していくために、幼稚園教諭の確保をはじめ、幼稚園現場の基盤の充実が必要です。</p>		
区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																							
計画値	量の見込み(A) (+168)	422 (+167)	413 (+163)	416 (+164)	410 (+163)																																							
	確保方策(B)	610	610	610	610																																							
実績値	申請児童数(C)	601	570	544																																								
	認定児童数(D)	601	570	544																																								
	差引(C)-(D)	0	0	0																																								
利用率	142.1% (101.7%)	135.1% (96.7%)	131.7% (94.4%)																																									
6 令和4年度事業に対する自己評価(事業担当課)			8 この事業全体を通じた課題																																									
<p>(1) 評価指標の補足説明</p> <p>令和4年度は、「蒲郡あけぼの幼稚園」、「蒲郡あさひこ幼稚園」、「木船幼稚園」、「鹿島こども園」の市内4園と市外の幸田町にある「幸田あけぼの第二幼稚園」の計5園で対象児童を受け入れ、量の見込み(413+163=576)を上回る体制を確保できました(評価指標①)。</p> <p>確保方策は申請児童数を上回っています(評価指標②：B-C)。利用率は100%を上回っております。</p> <p>また、利用定員の範囲内で満3歳児の受け入れを行っている園もあり、実績値にはその児童数も計上しています。令和4年度は、年度末(令和5年3月)に「木船幼稚園」「蒲郡あけぼの幼稚園」「蒲郡あさひこ幼稚園」「鹿島こども園」で、計61名の満3歳児の受け入れ実績がありました。</p>			<p>市、幼稚園、児童発達支援事業所、関係機関が連携を更に強めて、社会ニーズに迅速に対応できる体制づくりが必要です。</p>																																									

1 事業名	2	2号認定（3歳以上保育の必要あり）	6の続き																																									
2 事業担当課	子育て支援課		(2) 認定児童数の実績値																																									
3 事業内容	2号は、平日日中において、3歳以上の児童で保育の必要があるときに認定するものです。		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>最大値 (令和4年10月)</td> <td>令和4年 4月1日時点</td> <td>年度途中の認定</td> </tr> <tr> <td>認定児童数(人)</td> <td>1,178</td> <td>1,162</td> <td>16</td> </tr> </table>				最大値 (令和4年10月)	令和4年 4月1日時点	年度途中の認定	認定児童数(人)	1,178	1,162	16																															
	最大値 (令和4年10月)	令和4年 4月1日時点	年度途中の認定																																									
認定児童数(人)	1,178	1,162	16																																									
4 確保方策 (計画)	既存の公立保育園と私立保育園・認定こども園で量の見込みをすべて確保します。 教育ニーズは、現状では市内の幼稚園や認定こども園において提供されていますが、特定教育・保育施設においても確保が可能です。		<p>※実績値は最大値である令和4年10月時点の申請児童数(C)と認定児童数(D)としています。</p> <p>〈参考〉令和4年4月1日時点</p> <table border="1"> <tr> <td>申請児童数</td> <td>認定児童数</td> <td>差引</td> </tr> <tr> <td>1,162</td> <td>1,162</td> <td>0</td> </tr> </table>			申請児童数	認定児童数	差引	1,162	1,162	0																																	
申請児童数	認定児童数	差引																																										
1,162	1,162	0																																										
5 進捗状況(計画・実績値)及び評価			(3) 所見																																									
(計画・実績値)			園によって申請数に差があり、特にみどり保育園では、令和4年4月からの入所申込の際に定員を超える申請があり、令和3年度に引き続き市による利用調整を行いました。 また、支援が必要な児童については、児童やその家族にとって最善の支援が提供できるように努めた結果、令和4年度の入所につながったケースもありました。今後も保健師や保育士、療育機関などの関係機関と引き続き連携を行い、児童やその家族にとって最善の支援を提供できるよう努めます。																																									
<p style="text-align: center;">単位：人／年</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み(A) (-168)</td> <td>1360 (-167)</td> <td>1331 (-163)</td> <td>1341 (-164)</td> <td>1324 (-163)</td> </tr> <tr> <td>確保方策(B)</td> <td>1,392</td> <td>1,392</td> <td>1,392</td> <td>1,392</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">実績値</td> <td>申請児童数(C)</td> <td>1,178</td> <td>1,180</td> <td>1,162</td> <td></td> </tr> <tr> <td>認定児童数(D)</td> <td>1,178</td> <td>1,180</td> <td>1,162</td> <td></td> </tr> <tr> <td>差引(C)-(D)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>86.2% (98.2%)</td> <td>86.7% (98.9%)</td> <td>87.3% (99.5%)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※量の見込み(A)の下段()内の数字は2号認定教育ニーズの数字となり、実際の2号認定の利用見込みとしては上段の保育の必要性がある者の見込みから、下段の2号認定教育ニーズ見込みを差し引いた数字となります。 ※利用率：量の見込みと認定児童数との比較【(D)÷(A)×100%】 上段：(D)÷(A上段)×100% 下段：(D)÷(A上段+下段)×100%</p>			区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	計画値	量の見込み(A) (-168)	1360 (-167)	1331 (-163)	1341 (-164)	1324 (-163)	確保方策(B)	1,392	1,392	1,392	1,392	実績値	申請児童数(C)	1,178	1,180	1,162		認定児童数(D)	1,178	1,180	1,162		差引(C)-(D)	0	0	0		利用率	86.2% (98.2%)	86.7% (98.9%)	87.3% (99.5%)			<p>7 委員から出された課題等</p> <p>園によって申請数に差が出てしまうことにより、入所申込の際に定員を超える園もあり、令和3年度に引き続き市による利用調整を行っているとのことですが、児童やその家族にとって最善の支援を提供できるような取り組みが必要です。</p> <p>今後、インクルーシブ保育などに対応していくために、保育士の確保をはじめ、保育現場の基盤の充実が必要です。国は、保育園入園の希望があれば、保育に欠けない子も保育園に入園できる「こども誰でも通園制度」を検討しています。療育の必要な子を持った保護者の中には働きたくても働けない場合があり保育園が利用できない状況になっています。一方で、「こども誰でも通園制度」は保育園の定員の確保が必要になります。このような国の動向は、保育園の定員にもかかわってくることで、今後、国の動向や制度の趣旨を理解していく必要があります。</p>		
区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																							
計画値	量の見込み(A) (-168)	1360 (-167)	1331 (-163)	1341 (-164)	1324 (-163)																																							
	確保方策(B)	1,392	1,392	1,392	1,392																																							
実績値	申請児童数(C)	1,178	1,180	1,162																																								
	認定児童数(D)	1,178	1,180	1,162																																								
	差引(C)-(D)	0	0	0																																								
利用率	86.2% (98.2%)	86.7% (98.9%)	87.3% (99.5%)																																									
6 令和4年度事業に対する自己評価(事業担当課)			8 この事業全体を通じた課題																																									
(1) 評価指標の補足説明			園によって申請数に差があり、市による利用調整が行われているため、引き続き、園ごとの保育ニーズを把握していく必要があります。 また、今後は、市、保育園、児童発達支援事業所、関係機関が連携を更に強めて、社会のニーズに迅速に対応できる体制づくりが必要です。なお、国が進めている加速化プランの「こども誰でも通園制度」が実現した場合は、本市の方向性を考える必要があります。																																									
<p>令和4年度についても、例年と同様、公立保育園15園と私立保育園・認定こども園の3園(みどり保育園・鹿島こども園・木船幼稚園)で対象児童を受け入れ、量の見込み(1,331-163=1,168)を上回る体制を確保できました(評価指標①)。</p> <p>確保方策は申請児童数を上回っています(評価指標②：B-C)。利用率は99.5%であり、量の見込みと申請児童数がほぼ同じですが、園によっては定員を超える申請があり、入所の園を調整しました。</p>			<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標名</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価指標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価指標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			評価指標名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	評価指標①	○	○	○			評価指標②	○	○	○																							
評価指標名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																							
評価指標①	○	○	○																																									
評価指標②	○	○	○																																									

1 事業名	3	3号認定（3歳未満保育の必要あり）
2 事業担当課	子育て支援課	
3 事業内容	3号は、平日日中において、3歳未満の児童で保育の必要があるときに認定するものです。	
4 確保方策（計画）	既存の公立保育園と私立保育園・認定こども園、認可外保育施設、（令和5年度から小規模保育事業所も含む）で量の見込みをすべて確保する設定としています。	

5 進捗状況（計画・実績値）及び評価

（計画・実績値） 単位：人／年

区 分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
計画値	量の見込み（A）	581	609	647	681	712
	確保方策（B）	666	687	707	726	726
実績値	申請児童数（C）	548	568	536		
	認定児童数（D）	548	568	536		
	差引（C）-（D）	0	0	0		
利 用 率		94.3%	93.3%	82.8%		

※利用率：量の見込みと認定児童数との比較【（D）÷（A）×100％】

（評 価）

評価指標名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
評価指標①	○	○	○		
評価指標②	○	○	○		

6 令和4年度事業に対する自己評価（事業担当課）

（1）評価指標の補足説明（特定教育・保育施設）

公立保育園、認定こども園、私立保育園を合わせて647人（0歳は81人、1・2歳は566人）、認可外保育施設60人、合わせて707人の確保ができたので評価指標①は○と評価しました。

申請児童数は令和3年度から32人減少し、536人でした。ただし、低年齢児保育の申込者数は今後増加傾向にあると思われるので引き続き確保方策を充実させていきます。確保方策（B）が申請児童数（C）を上回っているため評価指標②は○と評価しました（評価指標②：B-C）。

6の続き

（2）年齢別の内訳と認定児童数の実績値

単位：人／年

区 分		令和4年度		
		0歳児	1・2歳児	
		特定教育・保育施設		認可外（※）
計画値	量の見込み（A）	80	567	
	確保方策（B）	81 (必要保育士数27名)	566 (必要保育士数95名)	60
実績値	申請児童数（C）	67 (必要保育士数24名)	416 (必要保育士数70名)	53
	認定児童数（D）	67	416	53
	差引（C）-（D）	0	0	0
利 用 率		83.8%	82.7%	

※認可外保育施設：
光の園、おひさまキッズ、ヤクルト蒲郡センター保育ルーム、
蒲郡東部病院保育所、ぴっころ、蒲郡市民病院院内保育所、ワイワイルーム

	最大値 (令和4年12月)	令和4年 4月1日時点	年度途中の 認定
認定児童数（人）	536	494	42

※令和4年4月1日時点の申請児童数は、0歳児28人、1・2歳児413人、認可外保育施設53人の合計494人。

（3）所見

認定児童数は、令和4年12月が最も多く、年間を通して待機児童は生じませんでした。待機児童は生じていない状況ですが、在園児数は増加すると見込んでいるため、引き続き保育士の確保を進め、計画どおりの体制を確保する必要があります。

また、認可外保育施設についても連携を取りながら受け入れ態勢の確保に努めていきたいと考えます。

7 委員から出された課題等

令和2年度からの3号認定の申込者の推移によれば、年度によって上下が激しいが、今後は共働き世帯が増加し、増加傾向にあると考えているため、確保方策もそのような対応をとっている。
→今後も共働き世帯を支援するために、ニーズを見極めていく必要があります。

8 この事業全体を通じた課題

保育希望者の把握は、少子化、共働きなどを考慮して総合的にニーズの把握に努めていく必要があります。

1 事業名	4	時間外保育事業（延長保育事業）	6の続き																																																																	
2 事業担当課	子育て支援課		(2) 認定区分ごとの利用者数																																																																	
3 事業内容	早朝や夕方などに保育を必要とする児童を、8時間または11時間を超えて保育を行うことで、保護者の需要に対応する事業です。		<table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>保育標準時間 認定児童</td> <td>保育短時間 認定児童</td> <td colspan="2">計</td> </tr> <tr> <td>利用者数(人)</td> <td>67</td> <td>96</td> <td colspan="2">163</td> </tr> </table>				令和4年度	保育標準時間 認定児童	保育短時間 認定児童	計		利用者数(人)	67	96	163																																																					
令和4年度	保育標準時間 認定児童	保育短時間 認定児童	計																																																																	
利用者数(人)	67	96	163																																																																	
4 確保方策 (計画)	引き続き、公立保育園と私立保育園・認定こども園で量の見込みをすべて確保します。		<p>○延長保育の利用可能時間</p> <p>保育標準時間認定(7:30~18:30)の場合</p> <table border="1"> <tr> <td>7:30</td> <td colspan="2"></td> <td>18:30</td> <td>19:00</td> </tr> <tr> <td colspan="3">通常保育</td> <td colspan="2">延長保育</td> </tr> </table> <p>保育短時間認定(8:30~16:30)の場合</p> <table border="1"> <tr> <td>7:30</td> <td>8:30</td> <td colspan="2"></td> <td>16:30</td> <td>19:00</td> </tr> <tr> <td colspan="2">延長保育</td> <td colspan="2">通常保育</td> <td colspan="2">延長保育</td> </tr> </table> <p>※開所時間の都合より、延長保育が利用できない園や利用時間が制限される園があります</p>				7:30			18:30	19:00	通常保育			延長保育		7:30	8:30			16:30	19:00	延長保育		通常保育		延長保育																																									
7:30			18:30	19:00																																																																
通常保育			延長保育																																																																	
7:30	8:30			16:30	19:00																																																															
延長保育		通常保育		延長保育																																																																
5 進捗状況(計画値・実績値)及び評価	<p>(計画・実績値) 単位:人/年</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み(A)</td> <td>210</td> <td>208</td> <td>203</td> <td>202</td> <td>199</td> </tr> <tr> <td>確保方策(B)</td> <td>210</td> <td>208</td> <td>203</td> <td>202</td> <td>199</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">実績値</td> <td>利用申込数(C)</td> <td>174</td> <td>178</td> <td>163</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>利用者数(D)</td> <td>174</td> <td>178</td> <td>163</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>差引(C)-(D)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>82.9%</td> <td>85.6%</td> <td>80.3%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※利用率:量の見込みと利用者数との比較【(D)÷(A)×100%】</p> <p>(評価)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標名</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価指標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価指標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	計画値	量の見込み(A)	210	208	203	202	199	確保方策(B)	210	208	203	202	199	実績値	利用申込数(C)	174	178	163			利用者数(D)	174	178	163			差引(C)-(D)	0	0	0			利用率	82.9%	85.6%	80.3%			評価指標名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	評価指標①	○	○	○			評価指標②	○	○	○			<p>(3) 所見</p> <p>利用率が80.3%にとどまっているのは、保育認定制度(保育標準時間と保育短時間)の導入により、適正な時間の保育を受けられるようになり、各区分を超える時間における保育を希望する保護者が減少したためと考えています。延長保育時間に従事する保育士の確保と子どもがゆったりと過ごせる環境作りができるよう努めます。</p>			
区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																																															
計画値	量の見込み(A)	210	208	203	202	199																																																														
	確保方策(B)	210	208	203	202	199																																																														
実績値	利用申込数(C)	174	178	163																																																																
	利用者数(D)	174	178	163																																																																
	差引(C)-(D)	0	0	0																																																																
利用率	82.9%	85.6%	80.3%																																																																	
評価指標名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																																															
評価指標①	○	○	○																																																																	
評価指標②	○	○	○																																																																	
6 令和4年度事業に対する自己評価(事業担当課)	<p>(1) 評価指標の補足説明</p> <p>令和4年度についても、公立保育園14園と私立保育園・認定こども園の3園(みどり保育園・鹿島こども園・木船幼稚園)で対象児童を受け入れ、量の見込みを確保できる体制を確保できました(評価指標①)。途中入所、利用変更の児童がいるため、年度末(令和5年3月)の人数を実績値としています。</p> <p>確保方策自体は利用申込数を上回っています(評価指標②:B-C)。</p>		<p>7 委員から出された課題等</p> <p>今後も延長保育の質の向上に努めてください。延長保育時間に従事する保育士の確保と子どもがゆったりと過ごせる環境作りが課題だと思います。</p>																																																																	
			<p>8 この事業全体を通じた課題</p> <p>引き続き、保育の質的な部分で、保育士と子どもがゆったりと過ごせる環境づくりが必要です。</p>																																																																	

1 事業名	5	放課後児童健全育成事業（ 児童クラブ ）				6 の続き																																																													
2 事業担当課	教育委員会 教育政策課					(2) 学年別の内訳																																																													
3 事業内容	放課後、保護者の方が就労などの事由により家庭にいない小学生に、遊びと生活の場を提供し、安全に保護します。 児童福祉法の改正により、平成27年度から高学年についても、児童クラブの対象児童となりました。 児童クラブ開所時間は、放課後から午後7時までです。					<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">4月1日時点</th> <th colspan="3">8月1日時点（夏休み中）</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>低学年</th> <th>高学年</th> <th>計</th> <th>低学年</th> <th>高学年</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">利用 申込数</td> <td>通期</td> <td>526</td> <td>115</td> <td>641</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>長期休暇</td> <td>157</td> <td>73</td> <td>230</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>683</td> <td>188</td> <td>871</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">利用者 数</td> <td>通期</td> <td>526</td> <td>115</td> <td>641</td> <td>490</td> <td>103</td> <td>593</td> </tr> <tr> <td>長期休暇</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> <td>183</td> <td>76</td> <td>259</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>526</td> <td>115</td> <td>641</td> <td>673</td> <td>179</td> <td>852</td> </tr> </tbody> </table>				4月1日時点			8月1日時点（夏休み中）					低学年	高学年	計	低学年	高学年	計	利用 申込数	通期	526	115	641	-	-	0	長期休暇	157	73	230	-	-	0	計	683	188	871	-	-	0	利用者 数	通期	526	115	641	490	103	593	長期休暇	-	-	0	183	76	259	計	526	115	641	673	179	852
		4月1日時点			8月1日時点（夏休み中）																																																														
		低学年	高学年	計	低学年	高学年	計																																																												
利用 申込数	通期	526	115	641	-	-	0																																																												
	長期休暇	157	73	230	-	-	0																																																												
	計	683	188	871	-	-	0																																																												
利用者 数	通期	526	115	641	490	103	593																																																												
	長期休暇	-	-	0	183	76	259																																																												
	計	526	115	641	673	179	852																																																												
4 確保方策 (計画)	引き続き、新規の児童クラブの開設に努め、量の見込みの確保を図ります。																																																																		
5 進捗状況（計画・実績値）及び評価																																																																			
(計画・実績値) 単位：人日／年																																																																			
区 分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																																													
計画値	量の見込み(A)	739	753	791	804	823																																																													
	確保方策(B)	750	753	791	804	823																																																													
実績値	利用申込数(C)	775	783	852																																																															
	利用者数(D)	775	783	852																																																															
	差引(C)-(D)	0	0	0																																																															
利 用 率		104.9%	104.0%	107.7%																																																															
※利用率：量の見込みと利用者数との比較【(D)÷(A)×100%】																																																																			
(評 価)																																																																			
評価指標名		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																																													
評価指標①		○	○	○																																																															
評価指標②		×	×	×																																																															
6 令和4年度事業に対する自己評価（事業担当課）						8 この事業全体を通じた課題																																																													
(1) 評価指標の補足説明						年々児童クラブ利用申込数は増加している。子どもたちの放課後の適切な環境作りのために、保護者のニーズを把握し、引き続き、量の拡充や指導員及び運営の質の向上を図っていく必要があります。																																																													
令和4年度に、形原小児童クラブ2を開設したことにより定員795名の受け入れ体制としたため、引き続き令和4年度の評価指標①は○としています。 また、確保方策は利用申込数を下回っているため指標表記としては×（評価指標②：B-C）となりますが、利用者の利用希望日数を踏まえ、クラブ現場とも相談しながら可能な限り受け入れを行っています。						年々児童クラブ利用申込数は増加している。子どもたちの放課後の適切な環境作りのために、保護者のニーズを把握し、引き続き、量の拡充や指導員及び運営の質の向上を図っていく必要があります。																																																													

1 事業名	6	子育て短期支援事業（ ショートステイ ）	6の続き																																																																	
2 事業担当課	子育て支援課		(2) 利用内訳																																																																	
3 事業内容	保護者の病気や就労などの事由により、子どもの養育が一時的に困難となった場合に児童養護施設などで一時的に養育・保護します。 ショートステイの利用期間はおおむね7日以内です。		<table border="1"> <tr> <td>延利用者数 (人)</td> <td>実利用者数 (人)</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table>				延利用者数 (人)	実利用者数 (人)	0	0																																																										
延利用者数 (人)	実利用者数 (人)																																																																			
0	0																																																																			
4 確保方策 (計画)	引き続き、市外の児童福祉施設3か所に子育て短期支援事業を委託し、量の見込みをすべて確保します。		(3) 所見																																																																	
5 進捗状況(計画値・実績値)及び評価	<p>(計画・実績値) 単位：人日/年</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み(A)</td> <td>61</td> <td>61</td> <td>59</td> <td>59</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>確保方策(B)</td> <td>委託3か所</td> <td>委託3か所</td> <td>委託3か所</td> <td>委託3か所</td> <td>委託3か所</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">実績値</td> <td>利用申込数(C)</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>利用者数(D)</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>差引(C)-(D)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>8.2%</td> <td>8.2%</td> <td>0.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※利用率：量の見込みと利用者数との比較【(D)÷(A)×100%】</p> <p>(評価)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標名</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価指標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価指標②</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	計画値	量の見込み(A)	61	61	59	59	58	確保方策(B)	委託3か所	委託3か所	委託3か所	委託3か所	委託3か所	実績値	利用申込数(C)	5	5	0			利用者数(D)	5	5	0			差引(C)-(D)	0	0	0			利用率	8.2%	8.2%	0.0%			評価指標名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	評価指標①	○	○	○			評価指標②	—	—	—			<p>家庭児童相談室、保健師、コンシェルジュ経由の相談対応を通じて、家族、親類や知り合い等の支援者による子どもの見守り支援が受けられない支援が必要な家庭に対し、養護・保護先を提供し、子どもの心身の安全に寄与するよう努めています。</p> <p>7 委員から出された課題等</p> <p>利用頻度は多くない事業になりますが、必要な時にきめ細かな対応ができるよう引き続き取り組みられることを期待します。</p>			
区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																																															
計画値	量の見込み(A)	61	61	59	59	58																																																														
	確保方策(B)	委託3か所	委託3か所	委託3か所	委託3か所	委託3か所																																																														
実績値	利用申込数(C)	5	5	0																																																																
	利用者数(D)	5	5	0																																																																
	差引(C)-(D)	0	0	0																																																																
利用率	8.2%	8.2%	0.0%																																																																	
評価指標名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																																															
評価指標①	○	○	○																																																																	
評価指標②	—	—	—																																																																	
6 令和4年度事業に対する自己評価(事業担当課)	<p>(1) 評価指標の補足説明</p> <p>令和4年度のショートステイ利用施設については、申込予定者は1名いたが、結果は利用者数はゼロであった。2歳未満児の受入先として「豊橋ひかり乳児院」、2歳以上児の受入先として児童養護施設「豊橋平安寮」・「豊橋若草育成園」と委託契約できたことから十分な体制は取れているものと捉えています。</p>		<p>8 この事業全体を通じた課題</p> <p>必要とする方が必要なときに活用できるように、今後も事業の周知を図ることが求められます。</p>																																																																	

1 事業名	7	地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター事業）	6の続き																																															
2 事業担当課	子育て支援課		(2) 相談件数																																															
3 事業内容	公共施設や保育園等の地域の身近な場所で、子育て中の親子の交流・育児相談等の基本事業を実施するものです。		<p style="text-align: right;">単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数</td> <td>494</td> <td>454</td> <td>△40</td> </tr> <tr> <td>相談人数</td> <td>178</td> <td>182</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>					令和3年度	令和4年度	増減	相談件数	494	454	△40	相談人数	178	182	4																																
	令和3年度	令和4年度	増減																																															
相談件数	494	454	△40																																															
相談人数	178	182	4																																															
4 確保方策（計画）	引き続き、既存の子育て支援センター3か所で、地域子育て支援拠点事業を実施し、量の見込みをすべて確保します。		(3) 所見																																															
5 進捗状況（計画・実績値）及び評価			<p>今後も施設の周知や利用しやすい環境の工夫に取り組みつつ、潜在利用者の利用促進に力を入れていきたいと考えています。新型コロナウイルス感染症の感染が落ち着いてきたこともあり、来所数は前年度より増えている。子育て中の交流の場が必要とされていることを感じました。相談件数が減っているのは、実際に来所し話す中で、相談することが深刻になる前に解消されたと思われる。引き続き相談しやすい雰囲気の中、丁寧に関わりながら、保護者支援に力を入れていきます。</p>																																															
(計画・実績値)			単位：人回／年																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み(A)</td> <td>12,455</td> <td>12,286</td> <td>11,904</td> <td>11,705</td> <td>11,485</td> </tr> <tr> <td>確保方策(B)</td> <td>3か所</td> <td>3か所</td> <td>3か所</td> <td>3か所</td> <td>3か所</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">実績値</td> <td>利用申込数(C)</td> <td>12,089</td> <td>10,808</td> <td>14,854</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>利用回数(D)</td> <td>12,089</td> <td>10,808</td> <td>14,854</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>差引(C)-(D)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>97.1%</td> <td>87.9%</td> <td>124.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	計画値	量の見込み(A)	12,455	12,286	11,904	11,705	11,485	確保方策(B)	3か所	3か所	3か所	3か所	3か所	実績値	利用申込数(C)	12,089	10,808	14,854			利用回数(D)	12,089	10,808	14,854			差引(C)-(D)	0	0	0			利用率	97.1%	87.9%	124.7%			7 委員から出された課題等			
区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																													
計画値	量の見込み(A)	12,455	12,286	11,904	11,705	11,485																																												
	確保方策(B)	3か所	3か所	3か所	3か所	3か所																																												
実績値	利用申込数(C)	12,089	10,808	14,854																																														
	利用回数(D)	12,089	10,808	14,854																																														
	差引(C)-(D)	0	0	0																																														
利用率	97.1%	87.9%	124.7%																																															
<p>※利用率：量の見込みと利用回数との比較【(D)÷(A)×100%】</p>			引き続き、施設の周知や利用しやすい環境づくりに取り組み、潜在利用者の利用促進に力を入れる必要があると思います。また、イベントの開催など事業の充実に期待します。																																															
(評価)																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標名</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価指標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価指標②</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			評価指標名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	評価指標①	○	○	○			評価指標②	—	—	—			8 この事業全体を通じた課題																													
評価指標名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																													
評価指標①	○	○	○																																															
評価指標②	—	—	—																																															
6 令和4年度事業に対する自己評価（事業担当課）			施設の周知や、潜在利用者の利用促進に力を入れる必要があると思います。																																															
(1) 評価指標の補足説明																																																		
<p>令和4年度も、例年同様3か所で実施し、計画値を確保できる体制を確保できました（評価指標①）。</p> <p>評価指標②については、本事業では直接の比較はできないものの、利用申込数から判断して現状の3か所での運営で対応できていると考えます。</p>																																																		

1 事業名	8	一時預かり事業
2 事業担当課	子育て支援課	
3 事業内容	家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳児又は幼児について、主として昼間において、保育園その他の場所で一時的に預かる事業です。一時預かりには、幼稚園在園児を対象とした一時預かり（預かり保育）と保育園その他の場所での一時預かりがあります。	
4 確保方策（計画）	一時預かり事業を実施している幼稚園（預かり保育）、保育園において量の見込みをすべて確保します。	

5 進捗状況（計画・実績値）及び評価

（計画・実績値） 単位：人日／年

区 分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
計画値	量の見込み（A）	11,369	11,318	11,077	11,159	11,014
	確保方策（B）	16,577	16,545	16,395	16,446	16,356
実績値	利用申込数（C）	9,300	10,090	8,996		
	利用者数（D）	9,130	9,828	8,661		
	差引（C）-（D）	170	262	335		
利 用 率		80.3%	86.8%	78.2%		

※利用率：量の見込みと利用者数との比較【（D）÷（A）×100%】

（評 価）

評価指標名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
評価指標①	×	×	×		
評価指標②	○	○	○		

6 令和4年度事業に対する自己評価（事業担当課）

（1）評価指標の補足説明

令和4年度については、幼稚園の預かり保育（通常の保育時間を超えて自園の児童を預かるもの）と保育園の一時預かり（保育園に入所していない児童を預かるもの）を実施しました。保育園、幼稚園ともに受け入れ態勢はとっているものの、全て受け入れられていないため×と判定しました。確保方策は利用申込者数を上回っているため、○と判定しました（評価指数②：B-C）。

6の続き

（2）一時預かり事業の内訳（幼稚園、保育園）

単位：人日／年

区 分		令和4年度	
		幼稚園 （預かり保育）	保育園 （一時預かり）
計画値	量の見込み（A）	6,895	4,182
	確保方策（B）	6,895	9,500
実績値	利用申込数（C）	5,785	3,211
	利用者数（D）	5,785	2,876
	差引（C）-（D）	0	335
利 用 率		83.9%	68.8%

※ 保育園での一時預かりについて
利用申込みをしたが利用できなかった人数は、延べ335人となり、昨年の延べ262人より73人増加しました。

（3）所見

令和4年度については、コロナウイルス蔓延防止のための蒲郡市の警戒レベルによる利用の要件が令和3年度より緩和された影響もあり、保育園においては利用者が増加したが、幼稚園も含めると全体としては減少しました。園によっては利用調整をすることもあるため、利用者のニーズにあった受け入れ態勢を充実したいと考えています。

7 委員から出された課題等

一時預かり事業については、市内でも育児環境の地域間格差が生じないように、研究をする必要があります。

8 この事業全体を通じた課題

事業の質的な部分で、地域間格差が生じないように今後研究することが必要です。

1 事業名	9	病児保育事業	6 の続き																																			
2 事業担当課	子育て支援課		(2) 利用実績の内訳 (令和4年度)																																			
3 事業内容	地域の児童が発熱等で急に病気になった場合、病院等に付設された専用スペースにおいて、看護師等が一時的に保育する事業(病児対応型)と、病気は治っているものの、病気の回復期にあり集団保育が困難な児童を一時的に保育する事業(病後児対応型)とがあります。蒲郡市では市内の事業者を実施を委託しています(平成28年度から病児対応型に拡大)。		<table border="1"> <thead> <tr> <th>利用児童の年齢</th> <th>延べ人数(人)</th> <th>病児保育</th> <th>病後児保育</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1歳</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>2歳</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>3歳</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>4歳</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td></tr> <tr><td>5歳</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>6歳</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>計</td><td>3</td><td>3</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>				利用児童の年齢	延べ人数(人)	病児保育	病後児保育	1歳	0	0	0	2歳	0	0	0	3歳	1	1	0	4歳	2	2	0	5歳	0	0	0	6歳	0	0	0	計	3	3	0
利用児童の年齢	延べ人数(人)	病児保育	病後児保育																																			
1歳	0	0	0																																			
2歳	0	0	0																																			
3歳	1	1	0																																			
4歳	2	2	0																																			
5歳	0	0	0																																			
6歳	0	0	0																																			
計	3	3	0																																			
4 確保方策(計画)	引き続き、市内の病児・病後児対応施設に病児保育事業を委託し、量の見込みをすべて確保します。		<p>※ 小学生の利用はありませんでした。</p>																																			
5 進捗状況(計画値・実績値)及び評価	(計画・実績値)		単位:人日/年																																			
	区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																
計画値	量の見込み(A)	17	17	16	16	16																																
	確保方策(B)	委託1か所 定員3人/日	委託1か所 定員3人/日	委託1か所 定員3人/日	委託1か所 定員3人/日	委託1か所 定員3人/日																																
実績値	利用申込数(C)	2	15	3																																		
	利用者数(D)	2	15	3																																		
	差引(C)-(D)	0	0	0																																		
	利用率	11.8%	88.2%	18.7%																																		
	※利用率:量の見込みと利用者数との比較【(D)÷(A)×100%】																																					
	(評価)																																					
	評価指標名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																
	評価指標①	○	○	○																																		
	評価指標②	○	○	○																																		
6 令和4年度事業に対する自己評価(事業担当課)	(1) 評価指標の補足説明 令和4年度についても、例年同様、市内の病児・病後児対応施設「おひさまキッズ」に事業を委託し、計画値を確保できる体制を実現できました(評価指標①)。 令和4年度には児童30人の新規登録がありました。平成22年2月22日の事業開始時点から数えて327人の児童が登録を受けており、そのうち260人が小学6年生以下の利用対象児童です。 確保方策は利用申込数を上回っています(評価指標②:B-C)。		8 この事業全体を通じた課題 引き続き、利用の周知に努めるとともに、真に必要とされている方が利用しやすい事業となるよう検討する必要があります。																																			
7 委員から出された課題等	令和3年度に比べて利用者が減少しています。引き続き事業が充実するよう期待します。																																					
8 この事業全体を通じた課題	引き続き、利用の周知に努めるとともに、真に必要とされている方が利用しやすい事業となるよう検討する必要があります。																																					

1 事業名	10	子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター）の就学児童対象部分	6の続き																																																												
2 事業担当課	子育て支援課		(2) 事業全体の実績（5以外の項目）																																																												
3 事業内容	児童の預かり等の援助を希望する者（依頼会員）と、援助を行うことを希望する者（援助会員）との相互援助活動に関する連絡・調整を実施する事業です。		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="3">令和3年度</th> <th colspan="3">令和4年度</th> </tr> <tr> <th>全体</th> <th>就学児</th> <th>未就学児</th> <th>全体</th> <th>就学児</th> <th>未就学児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用申込数（人日／年）</td> <td>2,487</td> <td>954</td> <td>1,533</td> <td>1,170</td> <td>427</td> <td>743</td> </tr> <tr> <td>利用者数（人日／年）</td> <td>1,938</td> <td>838</td> <td>1,100</td> <td>943</td> <td>392</td> <td>551</td> </tr> <tr> <td>利用者数の比率</td> <td></td> <td>43%</td> <td>57%</td> <td></td> <td>42%</td> <td>58%</td> </tr> </tbody> </table>				区 分	令和3年度			令和4年度			全体	就学児	未就学児	全体	就学児	未就学児	利用申込数（人日／年）	2,487	954	1,533	1,170	427	743	利用者数（人日／年）	1,938	838	1,100	943	392	551	利用者数の比率		43%	57%		42%	58%																							
区 分	令和3年度			令和4年度																																																											
	全体	就学児	未就学児	全体	就学児	未就学児																																																									
利用申込数（人日／年）	2,487	954	1,533	1,170	427	743																																																									
利用者数（人日／年）	1,938	838	1,100	943	392	551																																																									
利用者数の比率		43%	57%		42%	58%																																																									
4 確保方策（計画）	援助会員1人当たり年間25人日の活動により必要な提供体制を確保できる見込みですが、会員の地区に偏りがあるため、今後も援助会員の確保に努め、子育て援助活動支援事業を円滑に提供します。		<p>※ 未就学児・就学児の事業全体の利用者数の合計は、令和3年度は1,938人でしたが、令和4年度は943人と大幅に減少しています。ただし、就学児の利用者数も、令和3年度は838人でしたが、令和4年度では前年度比446人減の392人となりました。今後は、就学児・未就学児ともに利用の対応に力を入れていく必要があります。</p>																																																												
5 進捗状況（計画値・実績値）及び評価	<p>(計画・実績値) 単位：人日／年</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み(A) (1,860)</td> <td>335 (1,826)</td> <td>329 (1,791)</td> <td>322 (1,765)</td> <td>318 (1,732)</td> </tr> <tr> <td>確保方策(B) (1,860)</td> <td>335 (1,826)</td> <td>329 (1,791)</td> <td>322 (1,765)</td> <td>318 (1,732)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">実績値</td> <td>利用申込数(C)</td> <td>552</td> <td>954</td> <td>427</td> <td></td> </tr> <tr> <td>利用者数(D)</td> <td>450</td> <td>838</td> <td>392</td> <td></td> </tr> <tr> <td>差引(C)-(D)</td> <td>102</td> <td>116</td> <td>35</td> <td></td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>134.3%</td> <td>254.7%</td> <td>121.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※量の見込み(A)の上段は就学児、下段は全体（就学児と未就学児）の数字となります。 ※利用率：量の見込みと利用者数との比較【(D)÷(A上段)×100%】</p> <p>(評価)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標名</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価指標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価指標②</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	計画値	量の見込み(A) (1,860)	335 (1,826)	329 (1,791)	322 (1,765)	318 (1,732)	確保方策(B) (1,860)	335 (1,826)	329 (1,791)	322 (1,765)	318 (1,732)	実績値	利用申込数(C)	552	954	427		利用者数(D)	450	838	392		差引(C)-(D)	102	116	35		利用率	134.3%	254.7%	121.7%			評価指標名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	評価指標①	○	○	○			評価指標②	×	×	×			<p>(3) 所見</p> <p>平日の夕方から夜にかけての利用が主なため、今後もそのようなニーズに対応していただける援助会員を確保できるよう、引き続き、周知活動に努めていきたいと考えています。</p> <p>7 委員から出された課題等</p> <p>ファミリー・サポート・センターの利用者が令和4年度は少なかったため、制度の周知が必要です。同時に、援助会員が少なくなると制度自体が成り立たなくなるため、現在の周知方法である「タスカル通信」以外にも周知方法が必要です。そのような中、シルバー人材センター会員にも周知していただけるようになりますが、シルバー人材センターから援助会員さんがどれほど協力していただけるかが課題となります。</p>			
区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																																										
計画値	量の見込み(A) (1,860)	335 (1,826)	329 (1,791)	322 (1,765)	318 (1,732)																																																										
	確保方策(B) (1,860)	335 (1,826)	329 (1,791)	322 (1,765)	318 (1,732)																																																										
実績値	利用申込数(C)	552	954	427																																																											
	利用者数(D)	450	838	392																																																											
	差引(C)-(D)	102	116	35																																																											
利用率	134.3%	254.7%	121.7%																																																												
評価指標名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																																										
評価指標①	○	○	○																																																												
評価指標②	×	×	×																																																												
6 令和4年度事業に対する自己評価（事業担当課）	<p>(1) 評価指標の補足説明</p> <p>援助会員を85人確保しており（令和4年度末）、計画値を確保できる体制を維持しています（評価指標①）。確保方策は利用申込数を下回っています（評価指標②：B-C）。実績値の差引35件（人）については、前年度同様、他に見てもらえる人ができたなど利用者側の都合によりキャンセルとなった件数です。</p>		<p>8 この事業全体を通じた課題</p> <p>制度の周知と援助会員の確保が必要であります。現在とは別の周知方法も考えることが必要であり、シルバー人材センターが会員に周知をしていきますが、効果を検討する必要があります。</p>																																																												

1 事業名	11	利用者支援事業（子育てコンシェルジュ）
2 事業担当課	子育て支援課	
3 事業内容	子ども又は子どもの保護者が身近な場所において、相談に基づき子ども・子育て支援に係る情報提供、事業の利用について、必要なときに支援が受けられる事業を行います。	
4 確保方策（計画）	引き続き、子育てコンシェルジュを配置し、利用者支援事業を実施します。	

5 進捗状況（計画値・実績値）及び評価

（計画・実績値）

単位：か所／年

区 分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
計画値	量の見込み（A）	3	3	3	3	3
	基本型	2	2	2	2	2
	母子保健型	1	1	1	1	1
	確保方策（B）	3	3	3	3	3
	基本型	2	2	2	2	2
	母子保健型	1	1	1	1	1
実績値	実施施設（C）	3	3	3		
	基本型	2	2	2		
	母子保健型	1	1	1		

（評 価）

評価指標名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
評価指標①	○	○	○		
評価指標②	○	○	○		

6 令和4年度事業に対する自己評価（事業担当課）

（1）評価指標の補足説明

子育て世代包括支援センター・西部子育て支援センター・子育て支援課の3か所に1人ずつ子育てコンシェルジュ（利用者支援事業従事者）を配置し、量の見込みを確保することができました。（評価指標①）

中央子育て支援センターでは、子育てコンシェルジュ配置廃止を補うため令和3年度より「街角コンシェルジュ（出張相談会）」を開催してきましたが、令和4年度は更に開催回数を増やし、利用者ニーズに対応するように配慮しました。

評価指標②については、実施施設数の評価に加え、今後とも利用者のニーズを把握しながら検証してまいります。

6 の続き

（2）相談等の利用実績

	相談件数 (件)					相談人数 (人)
		西部	中央	子育て支援課	包括	
平成29年度	2,934	339	313	2,282		2,045
平成30年度	2,826	401	300	2,125		2,128
令和元年度	2,831		593	2,042	196	2,197
令和2年度	2,994		623	2,076	295	2,354
令和3年度	3,181	624		2,238	319	2,351
令和4年度	3,362	737		2,179	446	2,552

（3）所見

新型コロナウイルス感染症による影響も「新型コロナウイルス感染症があることが当たり前」の状況になり、徐々に普通の生活が戻ってきました。令和3年度は子育てコンシェルジュの活動にも工夫が必要でしたが、令和4年度はごく普通の利用者支援や利用者対応ができたと感じています。それでも、新型コロナウイルス感染症予防を気にかける利用者のため、Web相談・オンライン相談にも対応できるよう準備は整えましたが、実際の利用はありませんでした。相談者は「直接話をしたい」「気持ちを理解してほしい」という思いが強いということを感じました。子育てコンシェルジュの配置場所により、利用者が必要とする役割がそれぞれに違うため、各配置場所に適した利用者支援を進めてきました。今後も、それぞれの場での特性を活かした利用者支援を行っていきたいと考えています。

7 委員から出された課題等

コロナ禍での事業を経験して、相談の方法にも様々なニーズがあることがわかり、今後もWeb相談やオンライン配信の実施など、多角的な視点に立ち利用者支援について研究する必要があります。

8 この事業全体を通じた課題

相談の方法は対面相談、Web相談、オンライン配信の実施などを更に研究し、相談しやすい環境づくりが今後も必要です。

1 事業名	12	乳児家庭全戸訪問事業（ こんにちは赤ちゃん訪問 ）					6の続き					
2 事業担当課	健康推進課					(2) 訪問実施率と訪問未実施者への対応（令和4年度）						
3 事業内容	生後4か月までの乳児のいる家庭に訪問し、育児相談、子育て支援に関する情報提供や養育環境の把握を行う事業です。蒲郡市が直営で実施しています。子育てに関する不安の解消を図るとともに虐待の早期発見や予防を図ります。					<table border="1"> <tr> <td>訪問実施率</td> <td>94.7%</td> </tr> <tr> <td>未実施の理由</td> <td>未訪問者24名のうち、次年度4月に入ってから訪問済及び予定者5名、里帰り先へ訪問依頼9名、面接等にて対応10名</td> </tr> <tr> <td>未実施者への対応</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・電話相談 ・4か月児健診での面接 ・里帰り先の市町村の保健師への訪問依頼 ・外国人の方で通訳が必要な方へは子育て支援課に協力を依頼し、通訳の方と同行訪問し相談実施 </td> </tr> </table>	訪問実施率	94.7%	未実施の理由	未訪問者24名のうち、次年度4月に入ってから訪問済及び予定者5名、里帰り先へ訪問依頼9名、面接等にて対応10名	未実施者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・電話相談 ・4か月児健診での面接 ・里帰り先の市町村の保健師への訪問依頼 ・外国人の方で通訳が必要な方へは子育て支援課に協力を依頼し、通訳の方と同行訪問し相談実施
訪問実施率	94.7%											
未実施の理由	未訪問者24名のうち、次年度4月に入ってから訪問済及び予定者5名、里帰り先へ訪問依頼9名、面接等にて対応10名											
未実施者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・電話相談 ・4か月児健診での面接 ・里帰り先の市町村の保健師への訪問依頼 ・外国人の方で通訳が必要な方へは子育て支援課に協力を依頼し、通訳の方と同行訪問し相談実施 											
4 確保方策（計画）	引き続き、実施体制を整え、量の見込みをすべて確保します。					(3) 所見						
5 進捗状況（計画値・実績値）及び評価						訪問未実施24名全員の状況把握はできており、必要に応じ里帰り先依頼や面接等行えています。						
(計画・実績値)						7 委員から出された課題等						
単位：人／年						未実施の状況把握もできています。引き続き、訪問員の育成に努めて、諸機関との連携の充実が必要です。						
	区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度						
計画値	量の見込み(A)	529	520	511	502	491						
	確保方策(B)	赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師12名	赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師12名	赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師12名	赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師12名	赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師12名						
実績値	実施体制(C)	赤ちゃん訪問員21名 助産師2名 保健師11名	赤ちゃん訪問員18名 助産師3名 保健師12名	赤ちゃん訪問員18名 助産師3名 保健師12名								
	訪問件数(D)	467	504	449								
(評価)						8 この事業全体を通した課題						
	評価指標名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度						
	評価指標①	×	×	×								
	評価指標②	—	—	—								
6 令和4年度事業に対する自己評価（事業担当課）						ほとんどの家庭に訪問できており、未実施の状況把握もできています。引き続き、赤ちゃん訪問員を始めとした訪問者の確保と育成が課題と考えます。						
(1) 評価指標の補足説明												
令和4年度の訪問対象者は453人であり、出生数の減少に伴い見込みの対象者(A)を下回っています。令和4年度は449人に訪問を実施しました。対象者のうち令和5年4月以降に5名の訪問を予定、里帰り先に10名の訪問依頼をしており、多くを訪問で対応しています。必要者には訪問できる体制を確保し、赤ちゃん訪問を実施することができました。（評価指標①）。												
評価指標②について、本事業では直接の比較はできませんが、赤ちゃん訪問の実施は、現状の訪問者の人数で対応できています。しかし、訪問員が減少傾向にあり、地区による偏りも出てきているため新たな訪問員の育成を予定しています。												

1 事業名	13	養育支援訪問事業	6の続き						
2 事業担当課	健康推進課		(2) 妊娠期及び産後間もなくといった早期からの支援（令和4年度）						
3 事業内容	養育支援が特に必要な家庭を訪問し、保護者の育児、家事等の養育能力を向上させるための相談支援、育児・家事援助を行う事業です。蒲郡市が直営で実施しています。家庭での適切な養育の実施を確保することで乳幼児の健やかな成長や虐待の予防を図ります。		<table border="1"> <tr> <td>12世帯</td> <td>実18人</td> <td>対応：関係機関と連携して支援</td> </tr> </table>			12世帯	実18人	対応：関係機関と連携して支援	(3) 所見
12世帯	実18人	対応：関係機関と連携して支援							
4 確保方策（計画）	引き続き、実施体制を整え、量の見込みをすべて確保します。		保健師を中心として、地域の子育て関係機関と連携しながら支援しています。必要な方に支援ができているかを検討していきます。						
5 進捗状況（計画値・実績値）及び評価			7 委員から出された課題等						
(計画・実績値)			令和4年度も量の見込みを上回る訪問の実施ができていますが、引き続き諸機関との連携を含めて活性化に期待します。						
単位：人／年									
区分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度			
計画値	量の見込み(A)	30	30	30	30	30			
	確保方策(B)	助産師 2名 看護師 1名 保健師12名	助産師 2名 看護師 1名 保健師12名	助産師 2名 看護師 1名 保健師12名	助産師 2名 看護師 1名 保健師12名	助産師 2名 看護師 1名 保健師12名			
実績値	実施体制(C)	助産師 2名 看護師 1名 保育士 2名 保健師12名	助産師 2名 看護師 1名 保育士 2名 保健師12名	助産師 2名 看護師 1名 保育士 2名 保健師12名					
	訪問件数(D)	実37人 31世帯 延べ113人	実38人 23世帯 延べ75人	実28人 18世帯 延べ81人					
(評価)			8 この事業全体を通じた課題						
評価指標名		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度			
評価指標①		○	○	○					
評価指標②		—	—	—					
6 令和4年度事業に対する自己評価（事業担当課）			すべての家庭に必要な支援を受けることができるよう、これまで以上に諸機関と連携をし、事業の実施体制を構築することが求められます。						
(1) 評価指標の補足説明									
令和4年度は、昨年度より対象世帯数は減少しましたが、延べ訪問件数は増加し、量の見込みを上回る訪問を実施することができました。今後も支援が必要な家庭に対して適切な支援が継続できるように実施体制の確保が必要と考えます。（評価指標①）。									
評価指標②について、本事業では直接の比較はできませんが、専門職種が増え、より家庭の状況に合わせた継続支援が実施できるようになっています。									

1 事業名	14	妊婦健康診査	6 の続き																																			
2 事業担当課	健康推進課		(2) 母子健康手帳発行数 (令和4年度末)																																			
3 事業内容	妊婦の健康の保持及び増進を図るため、妊婦に対して健康診査を実施する事業です。		<table border="1"> <tr> <td>母子健康手帳発行数</td> <td>(再掲) 妊婦健診の1回目受診件数</td> </tr> <tr> <td>467</td> <td>467</td> </tr> </table>		母子健康手帳発行数	(再掲) 妊婦健診の1回目受診件数	467	467																														
母子健康手帳発行数	(再掲) 妊婦健診の1回目受診件数																																					
467	467																																					
4 確保方策 (計画)	引き続き、医療機関に委託し、量の見込みをすべて確保します。		(3) 所見																																			
5 進捗状況 (計画値・実績値) 及び評価			母子健康手帳交付時に妊婦健診受診券 (補助券) を交付することで経済的な負担を軽減し、妊婦の健康の保持及び増進のための健診受診を図っています。																																			
(計画・実績値)			単位: 人/年																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み (A)</td> <td>529</td> <td>520</td> <td>511</td> <td>502</td> <td>491</td> </tr> <tr> <td>確保方策 (B)</td> <td>医療機関委託</td> <td>医療機関委託</td> <td>医療機関委託</td> <td>医療機関委託</td> <td>医療機関委託</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">実績値</td> <td>実施体制 (C)</td> <td>医療機関委託</td> <td>医療機関委託</td> <td>医療機関委託</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受診件数 (D)</td> <td>487</td> <td>501</td> <td>467</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	計画値	量の見込み (A)	529	520	511	502	491	確保方策 (B)	医療機関委託	医療機関委託	医療機関委託	医療機関委託	医療機関委託	実績値	実施体制 (C)	医療機関委託	医療機関委託	医療機関委託			受診件数 (D)	487	501	467			7 委員から出された課題等			
区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																	
計画値	量の見込み (A)	529	520	511	502	491																																
	確保方策 (B)	医療機関委託	医療機関委託	医療機関委託	医療機関委託	医療機関委託																																
実績値	実施体制 (C)	医療機関委託	医療機関委託	医療機関委託																																		
	受診件数 (D)	487	501	467																																		
(評価)			母子健康手帳交付時に妊婦健診受診券 (補助券) を交付することなど工夫が見られます。引き続き、諸機関との連携の充実に期待します。																																			
6 令和4年度事業に対する自己評価 (事業担当課)			8 この事業全体を通じた課題																																			
(1) 評価指標の補足説明			ほとんどの妊婦が健診を受診できており、引き続き、現在の実施体制で事業を継続する必要があります。																																			
令和4年度は3年度に比べ、母子健康手帳発行数が467件と減少しており、それに伴い妊婦健康診査1回目の受診者数も467件と減少している。母子健康手帳発行数と妊婦健康診査1回目の受診件数が同数のため、ほぼすべての妊婦が受診できていると考えます。(評価指標①)																																						
評価指標②について、本事業では直接の比較はできませんが、すべての妊婦が必要な健康診査を受けることができる体制になっています。																																						

【参考】令和3年度事業の点検・評価（令和4年10月実施）に対する改善内容

事業・項目名		今後の課題（子ども・子育て会議）	改善内容（事業担当課）
1	1号認定 （3歳以上保育の必要なし）	1号から3号認定全体の認定人数としては横ばいですが、認定こども園での保育認定が増えてきて、1号認定としては全体的に園児が若干減少しています。引き続き、幼稚園との情報の共有化を図る必要があります。	引き続き幼稚園との情報の共有化に努めます。
2	2号認定 （3歳以上保育の必要あり）	引き続き、保育ニーズを適切に把握するとともに、関係機関と連携しながら児童やその家庭にとって最善の支援を提供できるよう検討の必要があります。	支援が必要な児童については、児童やその家族にとって最善の支援を提供ができるように、保健師や保育士、療育機関などの関係機関との連携に努めていきます。
3	3号認定 （3歳未満保育の必要あり）	今後、低年齢児保育ニーズは、さらなる増加が見込まれることから受け皿確保が引き続き課題です。併せて、保育が必要な方に保育が提供できるように保育士の確保に努め、民間活用の検討も行い、保育の質の充実に配慮する必要があります。	低年齢児保育の受け皿確保のため、就職支援プログラムの実施等、引き続き保育士の確保に努めます。
4	時間外保育事業 （延長保育事業）	引き続き、保育の質的な部分で、保育士の確保と子どもがゆったりと過ごせる環境作りが必要です。	延長保育時間に従事する保育士の確保と保育の質的な部分で、子どもがゆったりと過ごせる環境作りができるよう引き続き努めていきます。
5	放課後児童健全育成事業 （児童クラブ）	子どもたちの放課後の適切な環境作りのために、保護者のニーズを把握し、引き続き、量の拡充や指導員及び運営の質の向上を図っていく必要があります。	集合研修や各クラブでの個別ミーティングを通じて、職員の質を高める研修を行いました。また、新規採用職員向けの研修を行いました。引き続き、子どもたちの放課後の適切な環境作りのために、保護者のニーズを把握し、事業に取り組む必要があります。
6	子育て短期支援事業 （ショートステイ）	当該事業は必要な事業であり、引き続き、諸機関との連携を密にして、レスパイト保育も含めた柔軟な対応ができる体制の整備が求められます。	必要とする方が活用できるように、レスパイト保育も含めて今後もあらゆる機会をとらえて事業の周知を図ることが求められます。
7	地域子育て支援拠点事業 （子育て支援センター事業）	関係機関と協力し、現状やニーズの把握に努めるとともに、必要に応じて他機関との連携を行いながら柔軟な対応ができる体制の構築が求められます。	関係機関と協力し、例年どおり事業を実施することができました。
8	一時預かり事業	利用調整について、解消できる方法を検討し、必要な方が必要な時に利用できる体制作りが求められます。	必要にされている方に提供されるよう、体制の継続、更には見直しに努めていきます。
9	病児保育事業	引き続き、利用の周知に努めるとともに、真に必要とされている方が利用しやすい事業となるよう検討する必要があります。	更に利用の周知の方法を探り、必要にされている方に提供されるよう、事業に取り組む必要があります。
10	子育て援助活動支援事業 （ファミリー・サポート・センター事業）	引き続き、支援を必要としている方へ事業周知に努めるとともに、様々なニーズに対応できる体制強化が求められます。	事業の周知をし、援助会員と利用者の増加に努めます。
11	利用者支援事業 （子育てコンシェルジュ）	子育てを取り巻く環境の変化に合わせ、子どもや保護者が必要な時に子育て支援が受けられるように、引き続き、情報発信及び提供が求められます。	子どもや保護者が必要な時に、必要な子育て支援が受けられるように、引き続き、情報発信及び提供に努めていきます。
12	乳児家庭全戸訪問事業 （こんにちは赤ちゃん訪問）	ほとんどの家庭に訪問できており、未実施の状況把握もできています。引き続き、感染予防に努めた事業の継続が求められます。	引き続き、全家庭を訪問できるように努めていきます。訪問できなかった場合は、地区の担当保健師が面接し情報提供や養育支援方法を確認していきます。
13	養育支援訪問事業	すべての家庭に必要な支援を受けることができるよう、これまで以上に諸機関と連携し、事業の実施体制を構築することが求められます。	今後も課内の連絡会等で支援状況を確認し、必要な対象者に対して必要な時期に訪問ができるように努めていきます。
14	妊婦健康診査	ほとんどの妊婦が健診を受診できており、引き続き、現在の実施体制で事業を継続すべきです。	ほとんどの妊婦が必要な健診を受診できており、引き続き現在の実施体制で健診を実施し、妊婦の健康の保持及び増進、経済的負担の軽減を図るよう努めていきます。
その他全体にかかわる課題		子育て支援の必要な方が利用しやすくなるよう、引き続き、事業の周知が求められます。また、子育てを取り巻く環境の変化に対応できるよう、量の確保及び支援者の質の向上を図りつつ、諸機関との連携を密にして、より一層の事業の充実に努める必要があります。今後は、関係機関、各課の連携が重要になってくると考えます。	